

英文校閲の実際 第14話

——日本人が書いた英文に数の誤りが多い原因とその対策

本シリーズの主題は毎回変わりますが、毎回最も多い誤りは数の誤りです。今回は、SDがなぜこれほど頻繁に数の処理を誤るのか、その原因と対策を改めて考えます。

文例32 : Acute Oral Gavage Escalating Dose Toxicity Study in Dogs (6/8)

Summary より

(校閲前原文) : ⑩ The mean plasma concentration of ABC-123 was increased almost dose-proportionally from 3 to 100 mg/kg and those attained almost plateau at 100 mg/kg.

⑪ The values of M-I were increased approximately in proportion to the dose levels between 3 and 10 mg/kg and to a lesser extent than the increase in dose levels between 10 and 100 mg/kg and these attained plateau at 100 mg/kg or more. ⑫ The plasma concentration of M-II was less than the quantitation limit in most of the sampling points.

(和文) : ⑩血漿中 ABC-123 濃度の平均値は 3 から 100 mg/kg の間でほぼ投与量に比例して増加し、100 mg/kg でほとんど平衡に達した。⑪代謝物-I の濃度は 3 と 10 mg/kg の間では投与量にほとんど比例して増加したが、10 と 100 mg/kg の間では血漿中濃度の増加が投与量の増加を下回り、100 mg/kg あるいはそれ以上で平衡に達した。⑫代謝物-II の濃度はほとんどの測定ポイントにおいて定量限界以下であった。

(校閲後) : ⑩ The mean plasma concentrations of ABC-123 increased almost dose-proportionally from 3 to 100 mg/kg and these almost attained a plateau at 100 mg/kg. ⑪ The values of M-I increased approximately in proportion to the dose levels between 3 and 10 mg/kg and to a lesser extent than the increase in dose levels between 10 and 100 mg/kg and these plateaued at 100 mg/kg and above. ⑫ The plasma concentrations of M-II were less than the quantitation limit at most of the sampling points.

(解説) 文例32を全体的に見れば、3つの文章⑩・⑪・⑫から成り、それぞれ、ABC-123、M-I及びM-IIの血漿中濃度を記述しています。文章の数に注目すると、⑩と⑫は単数形で書かれており、⑪だけが複数形で書かれています。校閲者は⑩・⑪・⑫を全て複数形に統一しました。

SDが⑩の“concentration”を誤って単数扱いした原因は2つ考えられます。1つは、彼が日本語でものを考え、「平均血漿中濃度」をそのまま単数形の英語“mean plasma concentration”に翻訳した可能性です。もう1つは、“concentration”の数を考えたけれど、それが複数であることに気づかなかった可能性です。前者の場合は、数について考える習慣を身につける必要があります。後者なら、数を正しく判断する技術を身につける必要があります。その技術とは、当該文章⑩、またはその前後の文章から、“concentration”の数を判断するためのヒントを発見する技術です。具体的には、文章⑩中の「10及び100 mg/kg」がそのヒントになります。投与段階が複数あれば、平均血漿中濃度の数値も複数であると推定できるからです。また、次の文章⑪自体もヒントになります。なぜなら、SD自身が文章⑪を複数形で書いており、しかも文中には“dose levels”という文言も含まれ、投与段階が複数であることをSD自身も認めているからです。

次に、⑯の“was increased”が、自動詞“increased”に修正されました。「増加した」という場合の“increased”と“was increased”の使い分けについては、第7話の文例14の解説で詳細に説明しましたので、ここでは要点だけを書きます。増加には3種類あり、第1の増加は、例えば急須から茶碗にお茶を注ぐ場合のような、目に見える増加、第2の増加は、例えば血漿中薬物濃度のデータをグラフにしたとき、投与量に依存してグラフが一貫して右肩上がりに上昇する場合です。第1と第2の増加は、途中経過が実物やグラフで確認できるので、「継続的増加」と見なすことができ、自動詞“increased”が使われます。⑯の増加はこの第2のタイプの増加です。

第3の増加は、例えば毒性試験の投薬群と対照群で何かの値を比較して、投薬群の値が高かった場合に、その何かは「増加した」という場合、すなわち、2つの数値の比較だけで一方が増加したと見なす「非継続的増加」の場合は、形容詞“was increased”が用いられます。

原文⑯の“those attained almost plateau”の“those”（あれら）は、血漿中濃度を指す場合、距離感が遠すぎるので、校閲者は距離感が近い“these”（これら）に修正しました。

また、原文⑯の後半の“attained almost plateau”は、“almost”（殆ど）が“plateau”（平衡）を修飾していますが、校閲者は“almost”を動詞の前に移し、“these almost attained a plateau”（これらは平衡を殆ど達成した）に修正しました。修正の理由は、「平衡」がある定まった値なので、原文の「殆ど平衡を達成した」よりも、「平衡を殆ど達成した」の方が論理的に正しいからです。なお、“plateau”は可算名詞なので、その前に不定冠詞“a”が必要です。

⑰の原文の“these attained plateau at”が“these plateaued at”に修正されました。名詞の plateau を動詞に使ったこの修正により、⑯で使用した“these almost attained a plateau”という文語的表現の繰り返しを避け、文章が短縮化され、洒落た表現になりました。

⑱の原文“The plasma concentration of M-II was”も、主語も述語も単数形ですが、⑯の説明と同じ理由から、複数形にすべきでした。また、測定ポイントは時間的に1点なので、その前に置く前置詞は“in”ではなく“at”です。

文例33 : Acute Oral Gavage Escalating Dose Toxicity Study in Dogs (7 / 8)

Summary より

(校閲前原文) : ⑲ There were no gender differences in the plasma ABC-123 concentration at 3 and 10 mg/kg, ⑳ and the values were higher in males than females at 100 and 1000 mg/kg. ㉑ The plasma M-I concentration was higher in males than in females. ㉒ No treatment-related abnormalities were seen for body weights, food consumption, body temperature, heart rate or hematology.

(和文) : ⑲ 3 及び 10 mg/kg においては、血漿中 ABC-123 濃度の性差はなかったが、⑳ 100 及び 1000 mg/kg においてはその値は雌よりも雄の方が高かった。㉑ 代謝物 M-I の血漿中濃度は雄の方が雌よりも高かった。㉒ 体重、摂餌量、体温、心拍数、あるいは血液学的所見には投薬に関連した異常はなかった。

(校閲後) : ⑲ There were no gender differences in the plasma ABC-123 concentrations at 3 and 10 mg/kg, ⑳ but the values were higher in males than in females at 100 and 1000 mg/kg. ㉑ The plasma M-I concentrations were higher in males than in females. ㉒ No treatment-related abnormalities were noted for body weights, food consumption, body

temperature, heart rate or hematological results.

(解説) ⑱の原文の“concentration”が“concentrations”と、複数形に修正されました。1つ前の文例 32 の⑯と⑰に同様の文章があり、そこでは SD が血漿中薬物濃度の数を誤った原因を考察したので、今度は SD がなぜこの数の誤りを自分で発見し、修正できなかったかを考えます。

SD が数の誤りを自分で発見できなかった原因は2つ考えられます。1つは SD に自分が数を間違えているかもしれないという自覚がなく、見直しを全くしなかった可能性です。もう1つは、数の誤りを見直したけれども、“concentration”が複数であることに気がつかなかった可能性です。もし前者なら、自分が数に弱いことを自覚し、見直しの習慣を身につける必要があります。もし後者なら、数の誤りを発見する技術を身につける必要があります。この技術とは、文例 32 でも述べたように、当該文章または前後の文章から、問題の名詞（この場合は“concentration”）の正しい数を判断するためのヒントを発見する技術です。例えば、文章⑱では、1行目の“gender differences”（性差）がそのヒントになります。少し想像を働かせれば、「性差」を論じるには雌雄のデータが必要であり、“concentration”を複数にすべきであったことが分かります。

更に、同じ文章⑱には、数のヒントがもう1箇所あります。文末の“at 3 and 10 mg/kg,”です。投与段階が複数であれば、“concentration”も複数です。

もし⑱で、これら2つの複数を示唆するヒントに気づかなかったとしても、次の文章⑳には、更に明白な数のヒントが2箇所含まれています。1つは SD が自分で“the values were”と書いていることです。この“values”（複数の値）は、⑱の“plasma ABC-123 concentration”の値を指しており、SD は“concentration”が複数であることを自分で認めていたことになります。㉑で“values”と複数形にしたとき、⑱で“concentration”を単数形にしたことが誤りであったことに気づくべきでした。もう1つの明白な数のヒントは、㉑の後半で実際に雌雄のデータを比較していることです。要は、「この名詞の単数形は正しいか？」と疑ってみさえすれば、その文章中や前後の文章から正しい数のヒントや数の矛盾が見つかり、数の誤りを修正できたはずで

⑳の“and”が“but”に修正されました。前の文章に対し、否定的な文章が続くときの接続詞は“but”です。更に原文㉑の“females”の前にも“in”が必要です（同様の文㉒を参照）。

㉒の“concentration was”も、上述の⑱や㉑と同じ理由から、複数形にすべきです。

㉓の原文の“seen”（見られた）よりも、“noted”（記録された）の方が報告書向きです。また、㉓の最後の“or hematology.”が、“or hematological results.”（あるいは血液学的検査の結果）に修正されました。“results.”がある方が論理的です。

以上から、数の誤りを減らす方法をまとめると、次の2つになります：

- 1) 英文を書くときは日本語で考えた文章を英語に翻訳するのではなく、最初から英語で文章を考えること。
- 2) 英文を書き終わった段階で、全ての単数形の名詞について、それが本当の単数か、日本語をそのまま英語にしたための誤った単数形かを、上述の技術を使い、改めて検討すること。

(馬屋原 宏)